わたしはすぐに来る

２０２６年１０月２５日

ヨハネの黙示録　２２章６～１５節　　２１章５～８節

Ⅰ．預言のことばは真実である
　⑴預言者に霊を授けるのは神（神＝真実、正しい、信頼できる）
　　神が御使いを遣わし、起こるべきこと（神のご計画、摂理）をしもべに告知
　　「わたしはすぐに来る」（再臨の約束）
　　「預言のことばを守る者は幸い」（守る者への祝福の約束）

　　御使いと預言者、みことばを守る人々は皆神のしもべ（神ではない）
　　神格化してはならない　神のみ礼拝せよ
　　神　⇒　御使い　⇒　預言者　⇒　みことばを守る人々

　⑵神：アルファでありオメガ、最初であり最後、初めであり終わり（全ての全て）

Ⅱ．黙示録は神の啓示
　　封じてはならない
　　時が近い（主の再臨、さばきの時が近づいている）
　　各々の行いに応じて報いるために来る

Ⅲ．神の報い
　⑴聖なる者（自分の衣を洗った／罪の汚れ・呪いをイエス・キリストの血によって
　　いのちの木の実を食べる特権
　　開かれたまま閉じられない門から、自由に聖なる都に入れる

　⑵汚れた邪悪な者
　　外に留め置かれ、決して都には入れない
　　彼らは火と硫黄の燃える池に行く　　２１・８

Ⅳ．今は選別の時、分離の時
　　不正な者はますます不正に、汚れた者はますます汚れた者に
　　正しい者はますます正しく、聖なる者はますます聖なる者に　ならせよ

　　はっきり区別が進む　それぞれの性質が顕著になる
　　相反する両者が混じる（交じる）ことはない　むしろ分離するのが正常

Ⅴ．結び
　⑴神⇒御使い⇒預言者⇒聖徒（私もその一人）へともたらされたみことばは真実で
　　信頼にたるもの
　⑵守る者には祝福が、逆らう者には刑罰がある（神は義だから）
　⑶主の日（再臨）が近づく中で人々は選別されている（神の意志、各人の意志）
　⑷さばき（報い）の基準は「それぞれの行いに応じて」である（∵思い⇒言動）